



# 中高生とともに差別と闘う

## 「最近の若者は」

吉成タダシ



南海上をさまよっているかのよう  
に西進する迷走台風、呼吸するのが  
息苦しく生命の危機を感じるくらい  
の酷暑、いつどこで起こるか分から  
ないゲリラ豪雨の集合体のような西  
日本豪雨、この夏の気象は、本当に  
異常でした。

熊本地震が起きた年のGW、車を  
走らせて災害ボランティアに行っ  
てきました。ワゴン車に簡易畳を敷き、  
車中泊しつつ、朝が来れば自前の自  
転車でボランティアセンターまで行  
くのですが、本当にいろんな思いを  
抱かせてもらいました。当時書き込  
んでいたブログから少し。

### 〈二日目〉

放ってください。全部放ってください。  
さ。何度同じ言葉を吐き出したか。  
老夫婦の自宅。足の踏み場もないほ  
ど散乱し瓦礫と化した食器、家財道  
具。本当に片づくのか——。どこか  
らどう手をつけていいのか途方に  
く

粉々に砕け散った食器を拾い集め  
ながら、家族が重ねてきた時間を想  
う。老夫婦の家に四つのお椀。かつ  
て家族が困らだであろう歴史が食卓  
によみがえる。放ってください。全  
部放ってください。放りたいのでは  
ない。そうするしかないのだ。思い  
出を手ですくい集めながら、何度も  
何度も泣きそうになった。

放ってください、全部放つてくだ  
さい。おじいさん、歳を訊くと84歳。

我が父と同じ年。親父も同じ言葉を  
吐くのだろうか。胸が痛んだ。また  
涙がにじんできた。

### 〈二日目〉

熊本市内の小中高校のほとんどが、  
GW明けまで休み。ボランティア活  
動をしている女子高生に訊いた。ど  
うしてボランティアに？ 愚問だっ  
た。「自分にはこんなことしかできな  
いので……」ていねいに一つ一つ作業  
していく姿がいらした。バレ  
ーボール部だが、春の大会もなくな  
り、あとはインターハイだけのこと  
と。しかしこの一ヶ月は何もできて  
ない。他の部もそうだし、受験模試  
も体育祭も、消えた。恐らく小中学  
校でも。練習しなくては上手くなら  
ない。が、強くなる。思おうよう  
にできない時間が、思いを、自分を、

仲間との絆を強くする。決して失っ  
たものばかりではない。無責任と言  
われても敢えて言う。がんばれ！  
ラストマッチ！がんばれ！イン  
ターハイ！がんばれ！バレーボ  
ール！

### 〈三日目〉

お気に入りのコミックは？ 誰に  
も一つや二つはある。なかには本棚  
いっぱいの人。それ私だ！と思っ  
た人も。ビニール袋に入れられた「ハ  
ツカレ」「特攻の拓」「沈黙の艦隊」  
家族それぞれ時代の見る。

くまのプーさん、親子のホワイト

タイガーのぬいぐるみ。大きな親の  
ホワイトタイガーにまたがり、抱き  
つき、小さな子どもがホワイトタイ  
ガーを抱きしめて眠ったのだろう。  
ごめんね、今までありがとうね、涙  
声で話しかけ、ぬいぐるみの瞳をそ  
っとティッシュで押さえ、ビニール  
袋に入れる家人。壊れた屋根、青の  
ビニールシートの隙間から青空がの  
ぞく。地震だけならまだしも、雨の  
犠牲になった思い出たち。明日もま  
た雨。追いつきが恨めしい。

夏の過酷な作業の終わり頃、虚  
を突いたように、どこからともなく、  
縦笛の音色が響いてくる。「うさぎ追  
いしかの山小鮎釣りしかの川——」  
見れば避難所の小学生。疲れた気持  
ちにホリリと風が吹いた。

### 〈五日目〉

風が強いとどうなるか。町中に溢  
れかえったゴミが、風であおられ凶  
器へと変わる。災害ゴミ回収作業は  
遅々として進まぬが、それでも全国  
ナンバーの回収車が連日町を走り抜  
ける。頭が下がる。

今日の作業は、福岡二人、岡山一  
人、京都一人、私による男五人の崩  
れたブロック撤去。鉄骨ねじ切るに  
もコツがある。ハンマーとペンチを  
駆使。お年寄りには到底無理。全国  
から集結するボランティアにも頭が  
下がる。

強風のなか、そこかしこの家に被  
せられたビニールシートが不気味な

音をたてる。今にも破れ、引きちぎ  
れ、宙を舞いそうな勢い。もし飛ん  
でいつてしまえば……。風にたなびく  
のは鯉のぼりで良い。明日はこども  
の日。子どもの声に元気をもらおう。  
子は宝。元気いっぱい人生を泳い  
でおくれと心から願う。

当時の熊本市災害ボランティアセ  
ンター、毎朝九時には長蛇の列でし  
た。朝の七時前から並んでいる人も  
いて、少し遅れて来た人には、その  
日用意されていたボランティアが当た  
らないこともありました。

そのなかで特に目についたのは、  
若者と女性。小学生が親子で。中高  
生がジャージで、体操服で、制服で。  
大学生がスタッフとしてボランティ  
アを誘導し、案内し、受付を行って  
いました。「最近の若者は」と言うけ  
れど、この若者も最近の若者。東日  
本大震災や阪神淡路大震災が、この  
若者たちを育んできたのです。自然  
災害はないにこしたことはありません  
が、それを意味あるものに変えて  
いくこともできるわけです。

今回の西日本豪雨災害でもボラン  
ティアの様子報道されてきました。  
そのなかには、やはり若者が多く見  
受けられました。地震、津波、大雨、  
台風、火山、豪雪、世界的に見ても  
稀に見る自然災害大国、日本。だか  
らこそ、人を感じる気持ち、支え合う  
文化を、日常的に人権目線で育んで  
いきたいものです。